

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400388		
法人名	有限会社グループホーム・ナーシングハピネス		
事業所名	グループホーム・ナーシングハピネス		
所在地	栃木県佐野市小中町2011-4 (電話) 0283-20-1160		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(平成19年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月20日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算5.26人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	・理美容代、おむつ代、医療費、こづかい	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,334円		

(4) 利用者の概要(平成19年7月15日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 89歳	最低	79歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おぬき内科クリニック、うえき歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、もともと一緒に働いていた看護師4人が立ち上げたグループホームであり、管理者が職員を紹介する際に「仲間」として紹介していたことから職員同士の結束の固さがうかがえる。職員の離職も少なく、入居者もホームでの生活が長い方も多いため、家族的な雰囲気が漂っていた。医療連携体制加算の指定を受けており、24時間看護師が常駐している体制を作っており、家族の医療的安心度も高い。盆・正月の近隣への挨拶まわりや葬儀の手伝い、自治会の清掃活動への参加、近隣の公園での地域の方との井戸端会議等、一般家庭として地域にとけこんでいる様子が見られる。野菜等のいただきものもあり、手づくりこだわった食事の食材としてテーブルに並ぶこともある。理念にあるように職員の研鑽にも力をいれており、職員は積極的に研修に参加している。共用空間などは決して広いとはいえないが、そのことが逆に入居者と職員の一体感を感じさせるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の機会を更に質を向上するための機会として前向きに捉えている。これまでに、ヒヤリハット報告の取り組みなどの具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、まず管理者が作成し、職員に意見を求めた。アウトカム項目については全職員が実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、地域の方、地域包括支援センター長、家族に参画していただいている。家族は会場の関係もあり順番に1名ずつ参加していただき、その他の家族には会議録を送付している。ホームからは管理者のほか職員も交代で参加するようにしており、ホームの活動報告をしたり、研修について地域包括支援センター長に相談して実現に結び付けるなど会議を活かした取り組みもしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料の支払などで少なくとも月に1回は家族がホームを訪れており、家族の訪問の際には暮らしぶりや健康状態、金銭管理について報告をしている。必要に応じては電話での連絡もしている。家族の発案で、今後、庭でのバーベキュー実施なども検討にあがっている。ホーム玄関に苦情解決制度のポスターが掲示されており、担当者として管理者の氏名が書いてあった。また、市町村等の連絡先も掲示され、窓口には紙を円筒状にして「苦情受付窓口」と表示していた。運営推進会議には順番で家族に1名ずつ参加していただき、その他の方には議事録を送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、入居者と一緒にクリーン活動(清掃活動)に参加したりしている。盆・正月に近隣に挨拶まわりをしたり、職員が近所の葬儀の手伝いに出たりと自然に地域にとけこんでいけるようなことを当たり前のこととして実践している。以前は老人会にも参加していたが、入居者があまり馴染めなかったため、今は参加していない。近隣の公園に出掛けて、地域の方と「井戸端会議」をすることもできる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全で快適な共同生活を支援する」「日々の研鑽と誠意ある介護に努める」「社会的、身体的、精神的に安らぎのある場を提供する」をホームの運営理念としている。	○	地域の方々との付き合いが充実していることから、今後、地域密着型サービスとして地域の中でのホームの役割などを理念化していくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をリビング兼ダイニングに掲示しており、理念の共有に努めている。職員からは「親のような感じで接すること」を大切にしていることが聞かれ、また管理者は積極的に職員を研修に参加させるなど理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、入居者と一緒にクリーン活動（清掃活動）に参加したりしている。盆・正月に近隣に挨拶まわりをしたり、職員が近所の葬儀の手伝いに出たりと自然に地域にとけこんでいけるようなことを当たり前のこととして実践している。以前は老人会にも参加していたが、入居者があまり馴染めなかったため、今は参加していない。近隣の公園に出掛けて、地域の方と「井戸端会議」をすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の機会を更に質を向上するための機会として前向きに捉えている。これまでに、高めだったテーブルを低いものに変えるなどの具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、まず管理者が作成し、職員に意見を求めた。アウトカム項目については全職員が実施した。	○	地域の方々との交流が充実していることから、今後、地域密着型サービスとして地域の中でのホームの役割などを理念化していくことにも期待したい。また、評価の結果を運営推進会議にも報告し、意見や助言をいただきながら更なる質の向上に活かしていくことを期待したい。

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方、地域包括支援センター長、家族に参画していただいている。家族は会場の関係もあり順番に1名ずつ参加していただき、その他の家族には会議録を送付している。ホームからは管理者のほか職員も交代で参加するようにしており、ホームの活動報告をしたり、研修について地域包括支援センター長に相談して実現に結び付けるなど会議を活かした取り組みもしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は市の方針で包括支援センターが参画することになっており、市の職員の参加はないが職員と連携を図っている様子がうかがえた。市の職員にホームに来てくださいと呼びかけているが、まだ実現していない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払などで少なくとも月に1回は家族がホームを訪れており、家族の訪問の際には暮らしぶりや健康状態、金銭管理について報告をしている。必要によっては電話での連絡もしている。ホームだより、お便りなどの取り組みはないが、家族アンケートからは報告が良くなされている様子がうかがえる。運営推進会議の議事録も送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情解決制度のポスターが掲示しており、担当者として管理者の氏名が書いてあった。また、市町村等の連絡先も掲示され、窓口には紙を円筒状にして「苦情受付窓口」と表示していた。運営推進会議には順番で家族に1名ずつ参加していただき、その他の方には議事録を送付している。	○	家族の発案で、今後、庭でのバーベキュー実施なども検討にあがっている。家族が集まる機会づくりを支援しながら、率直な意見等を聞ける機会を増やし、運営に生かしていくことに期待したい。また、契約書（兼重要事項説明書）に要望・苦情等への対処姿勢は明記されているが、ホームや市、国保連の窓口などを明記しておくことも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員の離職は3人と、定年退職等の止むを得ない例以外はない。管理者が職員を紹介する際の「仲間」という呼び方からしても、職員が「同士」としてのつながりをもっていることがうかがえた。職員が変わる場合には入居者へのダメージに配慮している。退職した職員が、ホームに遊びに来るということもある。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は積極的に常勤・非常勤に関わらず、全職員を研修に参加させる方針をとっており、認知症介護実践研修などには交代で参加させている。職員が研修に参加する際には勤務ローテーションに配慮したり、出張扱いにしたりと研修に出やすい配慮をしている。定期的な職員会議はないが、朝の申し送りの時間などを利用してケアについて話し合っている。管理者は計画作成担当者を兼ねており、自身も多くの研修に参加し、研修の成果をケアに活かすよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修参加時などを利用して、市内及び複数のグループホームと改まった形ではないネットワークをつくり、困ったことを相談しあうなど、質の向上に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までには仮契約を経ての本契約という形をとっている。今まで仮契約から本契約に結びつかなかった方はいない。入居当初は、孤立することがないように職員が声をかけるなどして、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員に大切にしていることは何か、と訪ねたところ、すべての職員から「家庭的・家族的」ということが聞かれた。介助の度合いが高まっている状況も見受けられたが、食事後に入居者と職員と一緒に歌を歌う様子、入浴後に入居者と職員と一緒にテレビを見ている様子などから、一緒に過ごすということを大切にしていることがうかがえた。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から思いや希望を把握し、表出が困難な方は表情や動作などから汲み取っている。アセスメント方式について、管理者（兼計画作成担当者）は良いものがないか思案している。	○	管理者はじめ、職員は普段の生活の中で入居者の思いや希望、得意なことなどを把握している。ホームにとって最適と思われるアセスメント方式を確立し、情報の整理、共有、介護計画への反映等に活かしていくことに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見や希望を聞き、申し送りの時間を利用して職員から情報を得たり、必要によっては、医療関係者等に意見を聞いたりしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを実施しているが、計画自体は要介護認定期間ごとの見直しになっている。計画の見直しの際には説明して家族の同意をいただいている。	○	3ヶ月に1回モニタリングを実施していることから、その際に、本人や家族とも話し合いながら計画の見直し（継続も含めて）をしていくことを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。開設の経緯から管理者はじめ看護職が多いが、24時間看護職が常駐できるよう、看護職を中心に夜勤を行ったり、日中もパートタイム的に看護職を配置している。近所の理容室に入居者と一緒に行き終わると連絡をもらえたり、思い立って全員で外出したりと柔軟な支援をしている。		

グループホーム・ナーシングハピネス


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力医療機関に変えてもらうように話を するが、入居前からの継続的に受診すべきかかりつけ 医がある場合にはその受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで最期を迎えられた方は今までいないが、重度化してもできる限りホームでの生活を支えることとしており、折に触れて話し合っている。ホームには24時間看護職が常駐する体制を作っており、協力医療機関の医師とは、携帯電話で夜間でも連絡できる体制になっている。	○	ホームでの看取りも見据えて、医療機関との関係を更に深めたいと考えているので、理想とする連携体制を築いていけるよう引き続きの努力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や排泄を失敗したときの介助など、プライバシーに配慮した対応をしている。記録等は事務スペースで管理している。	○	入居者も職員もホームでの生活が長い方が多く、家族的な雰囲気が漂っていた。今後も家族的な雰囲気を大切にしながら、「家族的」が「馴れ」にならないように折に触れて職員間で確認しあっていくことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、日中の時間帯も職員を多めに配置していることもあり、思い立って外出したりと入居者の希望に沿って生活している。食事などもそれぞれのペースで食べられるよう支援していた。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりへの入居者の参加は年々難しくなっているが、片付けやテーブル拭きなど、できることは入居者にさせていただいている。手づくりの食事にこだわっており、野菜などのいただきものなどもある。職員も一緒に同じ物を食べながら、必要に応じて声かけ、介助をし、楽しくおしゃべりをしながら食事の時間を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に入浴をしているが、ほとんどの方が毎日入浴している。入浴の順番は入居者同士でゆずりあったりしている。介助の度合いが高くなっている方もいるが、時には入居者一人に職員2人で対応して入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、食事の後片付けやテーブル拭きなど無理のない範囲での家事的役割の支援をしている。風船バレーや飾り物づくりなどをすることもある。訪問日には、昼食後に職員が入居者それぞれの持ち歌で意欲を引き出しながら、それぞれに出番がまわるようさり気なく配慮して、入居者それぞれが満足する場面をつくっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ捨てがてらに1時間ほどのドライブを週に1~2回交代で出掛けたり、2台の車に分乗し、玄関に「出掛けています」の表示をして、思い立っての外出をしたりしている。近くに東屋のある公園があり、散歩がてら地域の方と井戸端会議をしたり、職員が付き添って近くの理容店・美容室に出掛けたり、買い物に行ったりと外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや声かけでできるだけ鍵をかけないようにしている。入浴の時間などは安全を考えて鍵をすることもある。外出の機会は数多くつくっている。	○	近隣との良い関係性を築いているホームの特徴を活かして、更に安全を確保しながらの自由な暮らしを支えていく方策を検討していくことを期待したい。

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練を入居者も一緒に実施している。リビングに非常時の電話連絡の仕方を掲示している。今後、地域の方への働きかけもしていきたいと考えている。	○	近隣との良い関係性を築いているホームの特徴を活かして、ホームの避難訓練時に近隣の方を誘ったり、非常時の具体的な協力体制を話し合ったりしていくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者の知り合いに栄養士がおり、時折アドバイスをもらっている。食事摂取量、水分摂取量にも気を配っている。毎月体重測定をしており、体重が増えた場合も健康診断の数値などを見て、心配な体重の増加なのかどうかも判断している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の調度・設備はいずれも家庭的なものを使用している。天窓には日よけのためにカーテンをし、換気のために開けたりもしている。西日のあたる居室の窓には簾がかかっていた。テレビの音や職員の声の大きさも適切で、気になる光や音、においなどはなかった。リビング兼ダイニングは決して広いとはいえないが、かえって一体感が感じられるのか、入居者は日中、ほとんど共用スペースで過ごすとのことだった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともとは洋室のしつらえを、入居者の希望が多い量にしたり、持ち込みがあまり多くなかったためにホームで各居室にタンスとミニタンスを1棹づつ用意するなどの配慮をしている。家族には持ち込みをしてもらうように話をしているが、写真などを飾ったりということはあるが全体的に持込は少ない。	○	本人の意向を確認しながら、馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋づくりを支援していくことに期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。